

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	北区
学 校 名	豊仁小学校
学校長名	服部敬一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・主として「知識」に関する問題（A問題）
 - ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- (2) 質問紙調査
 - ・児童に対する調査
 - ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・豊仁小学校では、第6学年 44名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語Aの平均正答率は大阪市よりも6ポイント高く、全国よりも2.2ポイント高い。国語Bは大阪市よりも4ポイント高く、全国よりも0.5ポイント低い。観点別に見ても「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において全国よりも高い。算数Aの平均正答率は大阪市よりも5ポイント高く、全国よりも1.4ポイント高い。算数Bは大阪市よりも1ポイント高いが、全国に比べると2.9ポイント低い。観点別に見ると、4観点とA問題、B問題の間に明確な差は見られなかった。ただ、平均無回答率は大阪市、全国と比べてやや高めであった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

(国語科)

国語科の学力は全体として高い。観点別に見ても「話すこと・聞くこと」と「書くこと」が高く、学校全体で、国語科の学習に限らず、全ての学習の中で話し合い活動や書く活動を多く取り入れてきことの成果であると考えることができる。今後も、発問を工夫し、日ごろから考え、議論する学習、自分の考えを短い文で表す学習を充実させることで一層の力をつけていきたい。

(算数科)

算数科においては、基本的な学力は身についているが、発展的な学力においてはやや課題がある。また、「数と計算」「数量関係」の領域に課題が見られることから、低学年の頃からそれぞれの学年段階において、確かな計算力を身につけさせる必要がある。そのことが十分にできていれば、上の学年において数学的な考え方を駆使して考えることの楽しさを一層味わうことができるようになり、発展的な学力も高まると考える。

質問紙調査より

学校の宿題に関して「している（93.0%）」「どちらかと言えばしている（4.7%）」と大阪市や全国に比べても非常に高く、宿題はするもの、しなければならないものという意識が強い。一方、宿題以外の家庭学習に関しては、それほど高い数値ではないことから、しなければならないことはするが、それ以上に進んで勉強するという点ではやや課題がある。

学校の決まりについては、自分に対してやや厳しめの評価というよりも、「ほぼ守れているが、完全にではない。」という現実的な見方をしていると考える。これは、本校の重点目標の一つに決まりを守ることがあり、それに向けて指導と評価を積み上げていることにより、規則の尊重について客観的に見ることができていることの結果であると思われる。

今後の取組

○ 国語科の学力は全体として高く、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が特に高い。これらは、以前は本校の課題であったが、教師が発問を工夫して学習の中で話し合う活動を多く取り入れ手きたこと、国語科以外の時間、例えば道徳の時間に「今日の学習で分かったこと」を道徳ノートに毎時間書かせてきたことなど、書く活動を多く取り入れてきたことの成果であると考える。今後も、全ての学習において子どもが考え、議論する学習を多く取り入れるとともに、自分の考えをまとめたり、要点を簡潔に書いたりするような書く活動を充実させていきたい。

○ 算数科においては、基本的な学力は身についているが、発展的な学力において課題がみられる。特に「数と計算」「数量関係」の領域に課題が見られる。算数科は積み上げの教科であり、全学年の学習が身についていることで、次の学年の学習が充実するものであるため、低学年の頃からそれぞれの学年段階において、全ての児童に確かな計算力を身につけさせる必要がある。

【 全体の概要 】

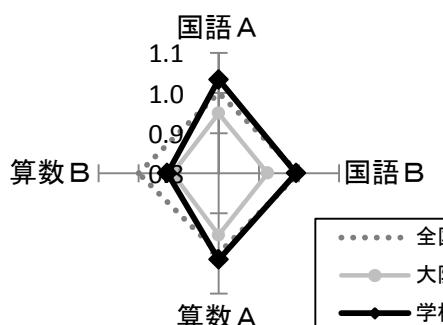
平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	77	57	80	43
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

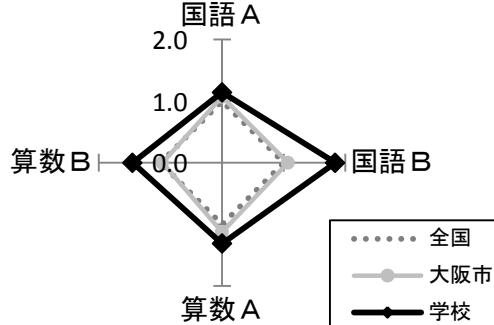
平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	3.2	7.9	2.1	9.3
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均正答率(対全国比)



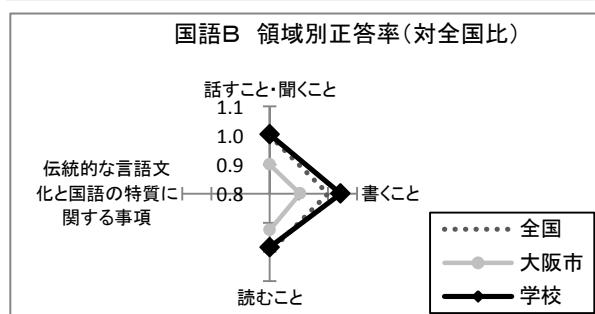
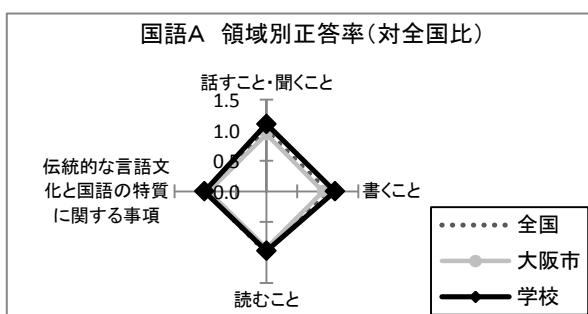
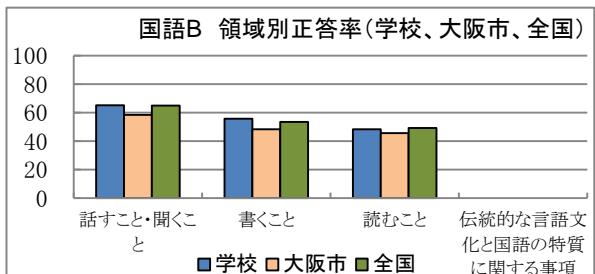
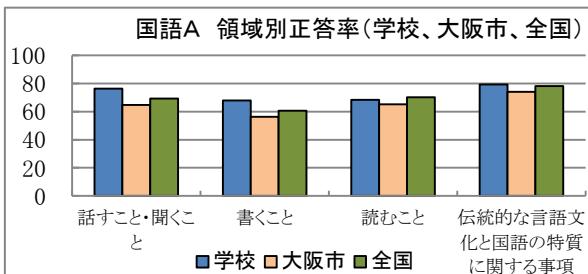
平均無解答率(対全国比)



【 国語 】

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	76.2	64.6	69.2
	書くこと	2	67.9	56.2	60.6
	読むこと	3	68.3	65.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	79.2	74.0	78.0

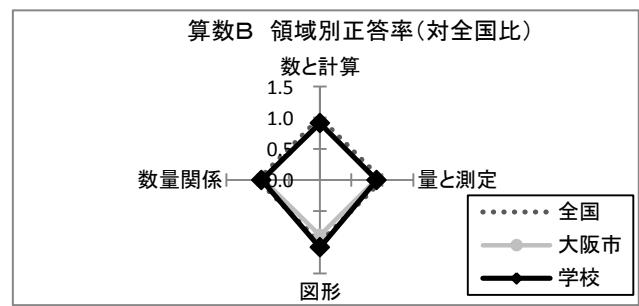
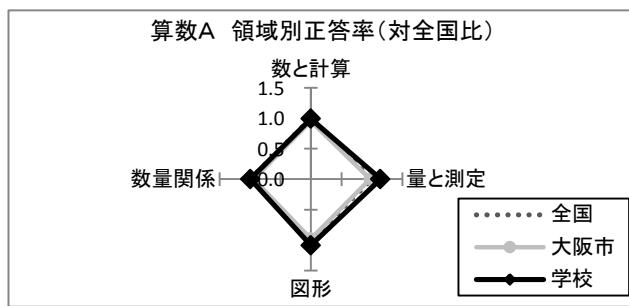
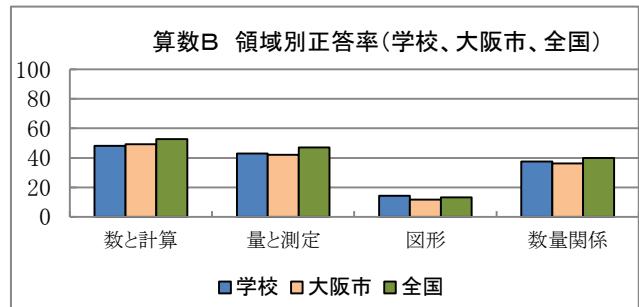
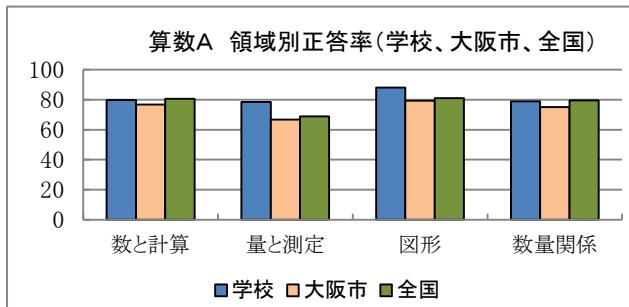
B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	65.1	58.4	64.9
	書くこと	5	55.7	48.3	53.4
	読むこと	3	48.4	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—



【 算 数 】

A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	79.8	76.7
	量と測定	2	78.6	66.8
	図形	2	88.1	79.3
	数量関係	5	79.0	75.0

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	5	48.1	49.2
	量と測定	2	42.9	42.0
	図形	1	14.3	11.7
	数量関係	8	37.5	36.1



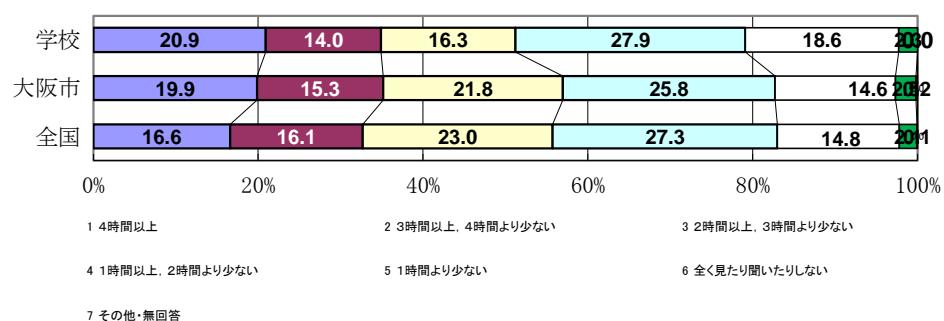
児童質問紙より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

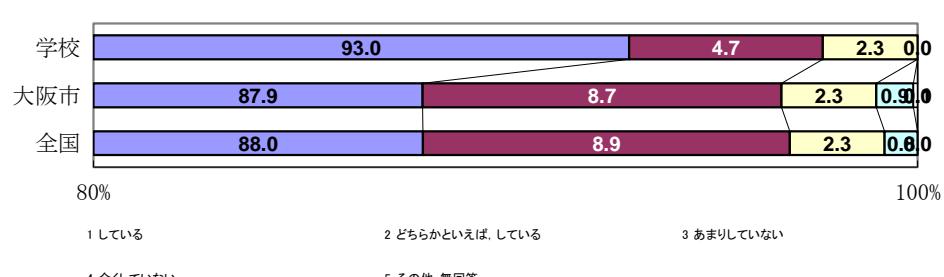
12

普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間, テレビゲームをする時間は除く)



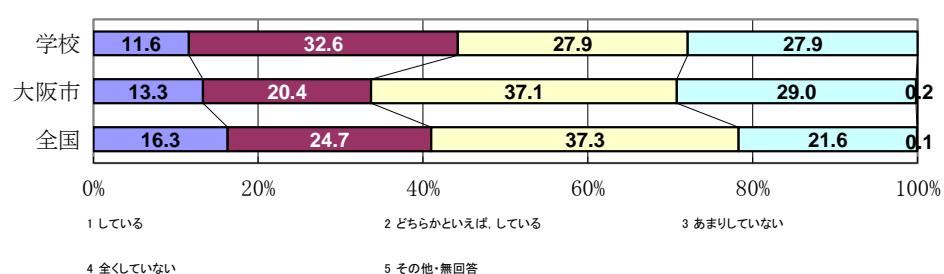
30

家で, 学校の宿題をしていますか



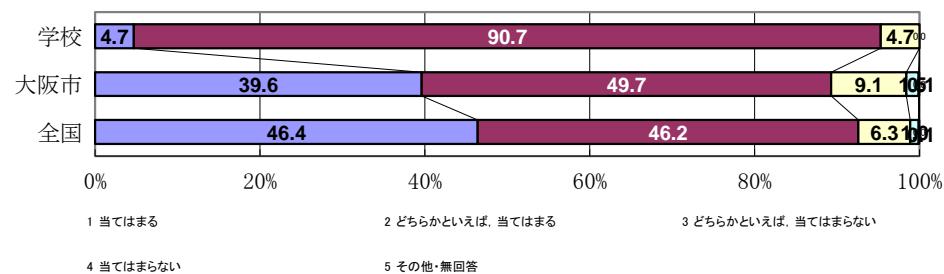
31

家で, 学校の授業の予習をしていますか



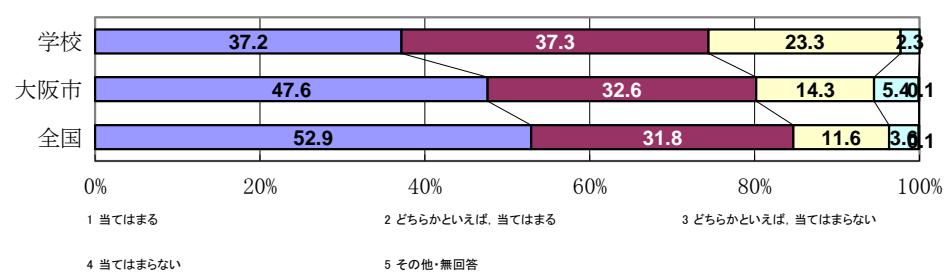
49

学校のきまりを守っていますか



56

5年生までに受けた授業では, 自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



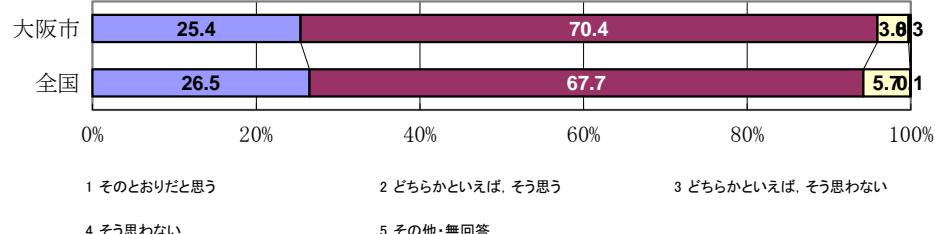
学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項
12

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

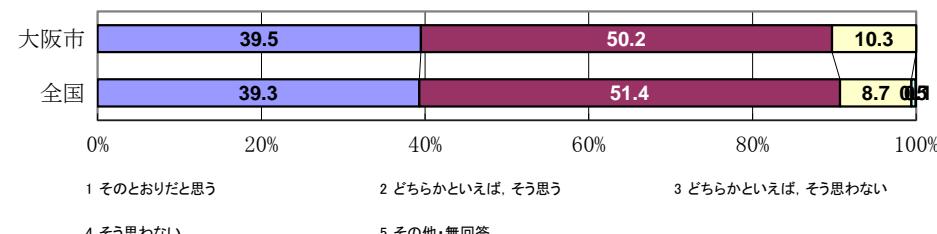
学校 「そのとおりだと思う」を選択



質問番号
質問事項
13

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

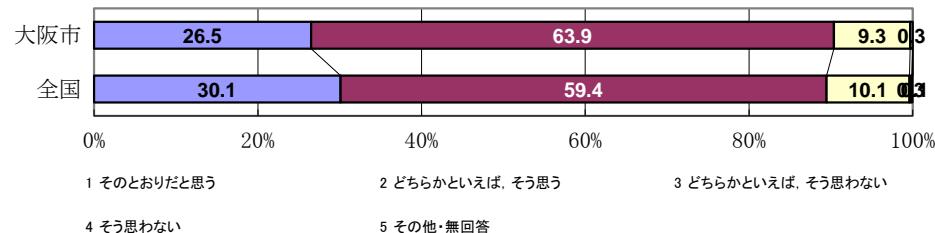
学校 「そのとおりだと思う」を選択



質問番号
質問事項
14

調査対象学年の児童は、礼儀正しいと思いますか

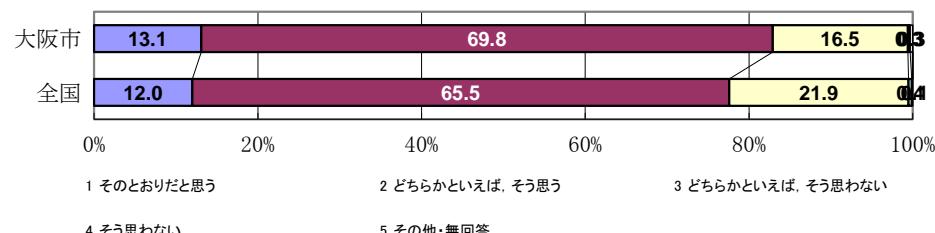
学校 「そのとおりだと思う」を選択



質問番号
質問事項
15

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

学校 「そのとおりだと思う」を選択



質問番号
質問事項
34

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択

